

『進化報』とその語法・語彙

矢野賀子

以前只知道有《进化报》，但具体出版日期和版式、栏目等不清楚。这次在北京大学历史系资料室看到了一本《进化报》的合订本，因而可以确定《进化报》的出版日期、版式以及上面的登载内容。本文并对这本《进化报》合订本上面刊登文章的语法、词汇进行了研究。

キーワード：北京方言、清末民初白話小説、白話新聞、『小額』

一. はじめに

清朝末の義和団の乱（庚子事変）に続く八ヶ国連合軍の北京占領に、北京の知識人達は西洋の力を思い知らされ、一刻もはやく国政を改革し、社会を啓蒙する必要を痛感し、様々な運動を展開していくことになる。蔡友梅（1872-1921, 名は松齡）は、その当時を『北京益世報』のコラム「益世餘譚」で次のように回想している。「庚子之後、北京風氣乍開、各志士創辦閱報社、宣講所及戒煙會等事。」⁽¹⁾別のところでは「十七年前、北京乍一開通、閱報處、宣講所林立（可都是私立的、官家還沒立呢）、内外城熱心志士一時興起。」⁽²⁾とあり、「閱報社」や「宣講所」での活動を通して民衆を啓蒙しようとする北京の知識人達の熱気が伝わるようである。二十歳代に秀才に合格し、清朝の官吏となっていた蔡友梅も「記者既無熱心、也非志士、不過被朋友糾合、追隨諸君之後。」と、周りの「志士」達の熱気に感染して啓蒙活動に参加していった。

蔡友梅は、この頃から新聞に投稿を始めたようで、1905年7月の『京話日報』⁽³⁾には6月から没になった原稿題名と投稿者の名前が掲載されており、それによると蔡友梅は松友梅の名前で3回投稿していた⁽⁴⁾。没になった投稿者名が公表されたのは、7月のみであり、蔡友梅がその前後どのくらい投稿していたかはわからない。もしかすると、蔡友梅は、いくら投稿しても掲載されないのならいっそ自分たちで新聞を発行しようという気になったのかもしれない。また、『京話日報』が1906年9月29日に「妄議朝政、捏造謠言、附和匪党、肆為論說」を理由に『中華報』ともに停刊の処分を受けたことが、『進化報』発行の動機の一つであった可能性もある。

実際、『京話日報』の停刊は、新聞界でも大きく取り上げられ、改革派の知識人や啓蒙に尽くしていた「志士」達に与えた精神的な打撃は計り知れないものであった。『進化報』に掲載された李玉崑の書簡⁽⁵⁾によると、「自從該報停版以後、在下如同聾了耳朵、瞎了眼睛一個様、雖然還有幾種報、好歹先不用說、在下因為不高興、也沒心去瞧、所以把報癮就這們生斷啦。」とあまりのショックに『京話日報』以外の新聞は読む気にならず気持ちの上でも落ち込んでいたことがわかる。李書簡には、さらに、新聞を読まなくなっていた李玉崑に、徳少泉⁽⁶⁾が装丁本の『進化報』を6冊持参すると、「雖然是一種白話小報兒、很有點兒深遠的見解。那一種忠君愛國的意思、現於言表、簡直跟京話日報的來派是一般無二。所以在下一瞧、說句迷信話吧、如同京話日報顯了魂一樣、不由的心裏一酸、落下幾滴淚來。沒想到京話日報停後、仍有這種進化報、寔在是又可悲又可喜的事情。」と、『進化報』はタブロイド判の小新聞ではあるが、『京話日報』の趣旨と精神を受け継いでいると『進化報』の発刊に涙を流して喜んだ事が書かれている。

※ E-mail yano@ha.shotoku.ac.jp

二. 『進化報』の発行

著者は2012年夏に北京大学東洋史系資料室所蔵の『進化報』を見ることができた。第180号から第209号を製本（以後この資料を「北大装丁本」とする）したもので、表紙の次に第183号の第一面⁽⁷⁾が綴じてあり、日付は「西曆一千九百零七年十月七號禮拜一」となっている。北大装丁本は、1907年10月5日から11月2日までの30日分を綴じたものである。日刊として逆算すると『進化報』の創刊は1907年4月となり、『中国新聞事業編年史(上)』⁽⁸⁾に1907年「4月5日(二月二十三日)《进化报》在北京创刊。」とある記述とほぼ合致する。

『進化報』の社屋については、『中国新聞事業編年史(上)』には続けて「社址在北京東單北大街」とするが、北大装丁本の第183号の第一面には住所の記載がない。頁によっては記事の枠外に広告の文字が見えるところがあり、あるいは枠外に印刷されていたのかもしれない。装丁本は製本しているため見るができなかった。蔡友梅は1919年から亡くなるまでほぼ毎日『北京益世報』に梅菟の筆名で随筆(コラム「益世餘譚」、後に「餘談」、「餘墨」と改名。700字から900字程度の文章を掲載。)を連載しており、随筆の諸処で『進化報』を発行していた当時を回想している。1921年9月10日の記事に、「十七年前、記者同趙時敏、關松石、樂綬卿諸君、在北新橋北組織進化閱報社。」との記述がある。蔡友梅本人の言葉であるから、北新橋北が出版拠点であったと考えるべきであろう。北新橋北は、蔡友梅の住居があった東頌年胡同に非常に近いことから、あるいは自宅が発行所となっていた可能性もある。他の新聞の社屋がほぼ瑠璃廠の南西の胡同か前門南東の胡同であることを考えると、城内北東の北新橋北に社屋を置いたのは極めて珍しい。

『進化報』の編集に参加した者には、楊曼青⁽⁹⁾、李問山、樂綬卿⁽¹⁰⁾の他に、胡星齋⁽¹¹⁾(別号無我)、趙時敏、關松石⁽¹²⁾がおり、この他『小額』に序を書いた徳少泉も投稿している。『進化報』の“總理”として新聞の発行を始めた時、蔡友梅は清朝の役人をしており、いわゆる二足の草鞋を履いていたのであるが、『進化報』を発行しても、給料などももちろん出ない⁽¹³⁾。それどころか新聞発行のために借財を増やし、閉館に追い込まれることになる。閉館に至るもう一つの理由は、同志の3人が北京を離れたことと、蔡友梅が公務で南方に出張し、長期間北京を留守にしたため、新聞社を取り仕切る者がいなくなったためである⁽¹⁴⁾。2年ほどしか続かなかった。

三. 『進化報』の紙面

『進化報』は、1日8面、第一面に紙名、号数、取扱所、価格等が表記され、第二面は一面広告である。一面二面はページ数が振っていない。第三面から第八面の枠の上部には「(第一百八十號) (進化報) (第一頁)」といった文字が印刷されている。第一頁は「演説」、第二頁から第五頁には演説の続きと「緊要新聞」、「本京新聞」、「畿輔新聞(天津や保定のニュース)」、「各省新聞」、「各國新聞」の欄が置かれ、「本京新聞」は毎日ほぼ2頁分掲載されている。第一頁から第五頁の内容は各ニュース量の多寡はあるが、「演説」、「緊要新聞」、「本京新聞」、「畿輔新聞」、「各省新聞」、「各國新聞」が5頁に収められている。第六頁は、毎日掲載されているのは「宮門抄」だけで、日により「上論」、「事件」、「雜錄」、「來函」の欄が見られる。

『京話日報』の後に発行された白話新聞の紙面の構成は、『京話日報』のそれを踏襲し、「演説」、「緊要新聞」、「本京新聞」、「畿輔新聞」、「各省新聞」、「各國新聞」、「宮門抄」のコラムはどの新聞にも設けられた。『進化報』も例に漏れない。各新聞の独自性が表れ、また読者獲得につながる欄は、小説や「兒童解字」⁽¹⁵⁾、「謎語」⁽¹⁶⁾のコラムであった。『進化報』は、「雜錄」のコラムに蔡友梅の小説を連載した。この小説は後に『小額』として刊行されるが、『進化報』掲載の時点では『小

額』の題名は記されていない。『小額』の題名は1908年に単行本として刊行された際に付けられたということになる。小説は毎日掲載されているのではなく、少ない日は3行、多い日は11行というように、余ったページを埋めるために書かれたように見える。北大装丁本には計15日間掲載されている。

四. 『進化報』の語法と語彙

1. 清代北京語の7つの特点

『小額』の文法的研究は、太田辰夫氏の「『小額』の語法と語彙」⁽¹⁷⁾に詳しい。太田氏はこの論文のまとめに清代北京語の特点として以下の7項目を挙げている。北大装丁本『進化報』の「演説」「緊要新聞」「本京新聞」「畿輔新聞」「各省新聞」「各國新聞」「宮門抄」等の文章を見ていくと、7項目の特点の例文を確認できた。

1) 一人称代名詞の包括形と除外形を“咱們”“我們”で区別する。“俺”“咱”などは用いない。

(1) 那位答話，說道：“老二呀，可有甚法子呢？咱們中國老不出能人嗎。”（第182號1）

(2) 這個又說，“…咱們自好苦忍着吧。”（第201號4）

2) 介詞“給”を有する。

・被動：

“讓”の後に用いる

(3) 全讓警董趙某跟勸學員等七八位給分啦。（第203號5）

“被”の後に用いる

(4) 有一處開燈賣烟的暗烟館，本月十四日，被左翼官兵給抄了。（第201號3）

(5) 也不是被誰給抱走啦。（第203號4）

・動詞+“給”の形で

(6) 別忙，別忙！等在下說給您聽聽。（第203號1）

・介詞として

(7) 該園主人，上前一把握給揪住了，大嚷“救人呦！救人呦！”（第180號4）

(8) 要有知道下落的，何妨給趙某家送一信去。（第203號4）

介詞賓語の省略の例：

(9) 找了許多人來，給救上來了。（第205號3）

・“把”と併用される場合

(10) 忽然由南飛了一輛馬車來，把老媽兒就給碰躺下了，便…。（第180號3）

(11) 不但他逼死人沒事，反把原告姓張給看起來啦。（第203號5）

(12) 内外城各廳各區，把向例有的煤火銀子給撤了。（第204號4）

(13) 出一個錯字，把全篇的興味都給鬧沒啦。（第207號2）

3) 助詞“來着”を用いる。

(14) 後來有人說，丟的那天，跟原先的媒人薛某一塊兒走來着。這樣看來，不算是丟了，是跑了。（第194號4）

(15) 前兩天，教丙丁兩班學生體操，乙班學生某人在旁邊說話來着（不對），該教員登時大怒（當怒），破口就這們一罵（這可就不對了），實在不大得體。（第195號4）

4) 助詞“哩”を用いず“呢”を用いる。

動作状態の存在不変化を表し、“還”“正”“沒”などと呼応する例。“呢”は“哪”とも書く。

- (16) 今年才三歲，在門口佔^ㄛ着來着，還不大很會走哪。(第 203 號 4)
- (17) 正在商議，還沒有達^ㄛ覆呢。(第 204 號 3)
- (18) 還忘不了呢。(第 205 號 1)
- 5) 禁止の副詞“別”を有する。
- (19) 您別倚着差使掙錢，那可是拿不住的。(第 180 號 1)
- (20) “你別哭，我帶你找去。”(第 194 號 4)
- (21) 這個說，“您這次考的怎麼樣啊？”那個說，“咳，別提啦。”(第 201 號 4)
- (22) 管人得瞧甚路兒，可以管的再管，別管的崗子上。(第 204 號 4)
- 6) 程度副詞“很”を状語に用いる。
- 述語動詞の状語として用いられた例
- (23) 東嶽廟前頭，有個賣絨線的小棚子兒，買賣近來很見發達。(第 200 號 4)
- 補語として用いられた例
- (24) 都說可惜的很。(第 206 號 5)
- 7) “～多了”を形容詞の後に置き、「ずっと」「はるかに」の意を表わす。“了”が“了 + 啊→啦”や“了 + 噢→嘍”になっている例がある。
- (25) 上外國很好啦。開開眼界，長長見識，寔在比我這株守故鄉的強的多了。(第 187 號 1)
- (26) 一提倡可就容易多啦。(第 205 號 1)
- (27) 您看旗裝改良，比漢裝容易多嘍。(第 180 號 1)

2. 語法から見た北京語

2.1. 代詞：

- ・ 這樣：定語・状語になるほか、“這樣看來”の形で使われることが多い。
- (28) 不但多數人這樣思想。(第 182 號 1)
- (29) 工徒裏頭，也會有這樣輕薄敗類的人啦。(第 198 號 3)
- (30) 這樣看來，好人實在難做。(第 181 號 5)
- ・ “這麼”、“那麼”、“多麼”の例は非常に少なく、太田氏が「特殊な代詞」とする“這們”“那們”“多們”が多く見られる。
- (31) 有一天，哥哥出去有事，來了一號買賣。他兄弟可就去這麼一代庖，到那里胡亂八糟，開了個方子，拿上馬錢就回來了。(第 187 號 3)
- (32) 古人說這們兩句話，是“少不努力，老大徒悲傷”。(第 181 號 1)
- (33) 那們大的事業，沒出八年，就全都辦完啦。(第 181 號 1)
- (34) 居然就這們隨便賭賭，實在不成事體。(第 205 號 3)
- (35) 怎麼這們有錢？(第 206 號 4)
- (36) 直嚷你們瞧，西邊着火了。那一帶鋪戶，全都跑出來了。一瞧沒有這們回事，又都罵咧咧的進去了。(第 184 號 3)
- ・ 夠多們 + 形容詞：感嘆を表す。
- (37) 那夠多們好哇。(第 185 號 1)
- (38) 一切公益的事情，不用提在下夠多們佩服啦。不用提在下夠多們眼熱啦。(第 184 號 2)
- ### 2.2. 数詞：数字「二」と「兩」の混用。
- (39) 下午二點鐘 (第 189 號 3)

(40) 裏頭有二樣兒毛病 (第 184 號 2)

(41) 如今憂時的志士, 一來就說中國沒錢, 兩來就說中國沒錢, 直彷彿僑們中國窮的動不了啦似的。(第 197 號 1)

2.3. 形容詞

2.3.1. 形容詞の重ね型が状語に使われるとき“的”を付けることが多い。

(42) 該旗的風氣頗頗的開通。…其餘的新政慢慢的推廣。(196 號 2)

2.3.2. 形容詞の後に補語“極了”を置く例。“了”は“啦”と表記される例もある。

(43) 性情是勤敏極了。(第 181 號 1)

(44) 聽說這位桂君音樂是精通極啦。(第 185 號 3)

2.3.3. 形容詞の後に補語“的慌”を置く例。

(45) 好讓人惡心的慌。(第 186 號 1)

2.4. 動詞

・動詞 + “在/到”の“在”“到”に“的”が用いられる例

(46) 朋友說的這儿 (第 187 號 1)

・彷彿…似的: 「～ようである」の意で使われている。

(47) 真彷彿一出能人, 就能夠把中國救過來似的。(第 182 號 1)

2.5. 介詞

起点を表す「～から」の意で使う介詞は“打”“從打”“由”が見られる。

(48) 晚晌再打齋外頭把他運回去。(第 181 號 1)

(49) 要說是從打一起頭說起 (第 181 號 2)

(50) 前兩天, 有三個行路的, 拉着個小驢兒, 由那里走來着。忽由路旁躡出四個人來, … (第 182 號 4)

2.6. 副詞

・頂: “最”の意で使われる。

(51) 頂高別過一寸。(第 180 號 1)

・所: 「すべて」の意味である。

(52) 要是一反復, 是准死無。移過了幾天, 這位堂客想已經忘了好幾天啦, 並不覺着怎樣, 以為是所好啦呢。(第 186 號 4)

・幾幾乎: “幾乎”; 「ほとんど」の意で使われる。

(53) 各報一嚷嚷, 幾幾乎沒給裁了。(第 181 號 3)

・一死兒: 「なにがなんでも」の意で使われる。

(54) 有一個輸了四五吊啦, 還一死兒要撈呢。(第 206 號)

・到了兒: 「おしまいには」の意で使われる。

(55) 聽說到了兒, 還是包給某國啦。(第 181 號 4)

・可就: 強い肯定を表す。

(56) 要論到僑們中國, 如今所說的意見兩個字, 可就擰啦。(第 199 號 1)

・竟: 限定を表す。

(57) 竟說北京, 輕生的事情, 是層見疊出, 都是沒有教育之過也。(第 205 號 3)

・已然: 時間副詞

(58) 本月二十二日, 已然分別着全都派差啦。(第 206 號 3)

(59) 各鄰居聞聲趕到，已然的燒死。(第 195 號 5)

(60) 已然把費姓舉獲到案究辦。(第 195 號 5)

・要根兒：「もともと、全く」の意味で、“壓根兒”と同じである。

(61) 什不閑一節，與地方風俗上，很有妨碍，所以現在，要根兒不准唱了。(第 185 號 4)

・陳根兒：北京語で、“根本上來說”の意である。

(62) 噯喲，陳根兒就為錢糧嗎？(第 194 號 4)

2.7. 連詞：北大装丁本に見られる呼応表現を次に挙げる。

・一邊兒…一邊兒…/一邊兒…一邊兒…。

(63) 小孩兒是一邊兒走一邊兒哭，巡警是一邊兒走一邊兒哄，說…。(第 194 號 4)

(64) 一邊說，一邊數數嘮嘮的哭。(第 205 號 3)

・就要…啦。：

(65) 現在商量的，已有端倪，不久就要開辦啦。(第 206 號 3)

・無論是…也：

(66) 就說是人在幼小的時候，若是不努力勤學，趕到了老大的時候，無論是怎麼樣的悲傷，也是不中用了。(第 181 號 1)

・越…越…：

(67) 兩個人越說越岔，就打起來了。(第 204 號 4)

(68) 泥別撈啦。沙土井，越撈越深。(第 206 號 4)

・但分：北京語で、“只要”の意で用いる。

(69) 但分要是家庭有教育，決不能出這樣的忤逆孩子。(第 194 號 3)

2.8. 接統詞

・那們：「それなら」の意。

(70) 那們遇不見聖人，這世界就算拉倒嗎？(第 182 號 1)

(71) 我要不說，諸位也想不起來。那們咱們就說說，四外各省不用提，就先以京城而論。(第 197 號 1)

2.9. 助詞

・嘍：「動詞＋了，…。」の“了”に“嘍”が使われている。

(72) 無論多們笨，一月功夫沒有不會的。學會嘍以後，甚麼記賬啊，寫信啊，以及看書看報哇，全成啦。(第 198 號 1)

(73) 您要學會嘍字母，無論是甚麼，只要你說的出來，就寫的出來。(第 198 號 1)

2.10. 語氣詞：

・吆：強い肯定を表す。

(74) 大讓“救人吆，救人吆!”(第 180 號 4)

(75) 有一件最妙最吃緊的法子。你要問，沒有別的，就是這國民教育吆。(第 182 號 1)

(76) 輕生的事情，是層見疊出，都是沒有教育之過吆。實在可嘆。(第 205 號 3)

・了

1) 啦：“了＋啊→啦”となったもの。「動詞＋了…了。」に相当する文は、「動詞＋了…啦。」と表記されることが多い。

(77) 他都搶了去啦。(第 205 號 3)

(78) 鬧的太不像啦。(第 199 號 3)

2) 咧: “了 + 欸→咧” となったもの。

①並列を表す。

(79) 除去飯食銀, 甚麼人情咧, 分往咧, 剃頭打辮子啦。(第 204 號 4)

②なげやりな口調を表す。

(80) 屢次遷移, 不過是白費有用的欸項罷咧。(第 180 號 3)

3. 語彙

3.1. 名詞:

・「午後」の意味で“午後”“下午”“後半天”“後半天兒”が使われている。“後半天”“後半天兒”は北京語である。“晚晌”は、「晚、夕方」の意の北京語である。

(81) 病人的母親來啦。說“後半天兒吃了藥, 後半夜就死了。”(第 187 號 3)

・新近: 「このごろ」「最近」は“最近”ではなく、“新近”が使われている。

(82) 新近約會了許多熱心志士, 要創辦一處閱報社。(第 206 號 3)

・見天: 「毎日」の意の北京語である。

(83) 因為軍機事情很繁很緊, 不能見天到署。(第 183 號 3)

・伏假: 「夏休み」。

(84) 有本年伏假頭裏, 已然是畢業啦。

・老嚴兒: 「隙間がない」状態を表す。

(85) 上頭砌了個老嚴兒, 沒有出氣兒的地方。真得改一改, 把上蓋兒可以挖兩個窟窿。(第 183 號 3, (涼))

3.2. 社会、時代、風習に関する名詞

・跟前: 「ひざもと」の意味であるが、子供の有無を言うときに使う。北京語。

(86) 家裏是兩口兒, 跟前一兒一女。(第 206 號 4)

・「自転車」として、“脚踏車”と“自行車”が使われている。

(87) 置一輛馬車, 好幾百兩, 買一個脚踏車, 一二百塊。

(88) 有個騎自行車的, 真是揚眉吐氣, 得意洋洋, …。(第 180 號 4)

(89) 都騎着自行車往各處查詢。(第 198 號 3)

・鐘兒: 自転車のベル

(90) 我鐘兒响, 你沒聽見嗎? 耳朵是管幹什麼的? (第 180 號 4)

・手燈子: 手提げガス灯、ランタン

(91) 該處看街的, 睡的困面朦朧, 出來忘了手燈子啦。

・“水會”が民間の消防組織であるのに対して、“消防隊”は行政機関の消防組織である。

(92) 多虧消防隊、巡警、水會等一路使水大打, 算是把他老人家打的桃之夭夭啦。(第 190 號 5)

(93) 聽說九城的水會, 打算要結成團體, 立一個總會, …, 定出日子來, 出城練習。為的是到救火的時候, 不至於臨時搗亂。(第 183 號 4)

・翼啦: 八旗の軍隊の中の事務室の俗名。

(94) “步營左右兩翼翼尉, 在住宅的左近, 必要安設一處檔房, 俗名叫作翼啦, 遇有什麼案犯, 必要在翼啦, 問明口供, 方才往提署解送哪。”(第 182 號 3)

・二葷鋪:

(95) 西單牌樓北, 魚市大街路南, 有個興隆二葷鋪。(第 201 號 4)

「二葷鋪」は、『中日大辞典』によると、「旧時の飲食店の一種：簡単な食事やお茶を出す食堂」とし、お茶だけを供する茶館「清茶館」に対していうと説明する。蔡友梅は、コラム「益世余譚」の中で、大きい茶館は「窩窩茶社」ともいい、比較的小さい茶館を「二葷鋪」といってお茶の他に酒や食事を出すが、お茶を飲む客の方が食事する客より多いので、やはり「茶館」と呼ぶと述べている。夜間はアヘンも供して非常に乱れていたようである⁽¹⁸⁾。

・「大兩把兒頭」と「大拉翅兒」：ともに満族貴族の女性の髪型を指す。「扁方儿」を使って髪を左右に巻き上げていく。後に針金で作った骨組みに黒紗を貼ったかぶり物が出て便利になった。「扁方儿」を使うと重さは5, 6キロになったという。

(96) 再說就是大兩把兒頭（就是大拉翅兒），如今的旗頭，大的真沒有王法啦。（第180號1）

・閱報社：無料新聞閲覧所。新聞は新聞社が提供したり、読者が提供することもある。新聞の内容について講釈し、民衆を啓蒙する場所でもあった。

(97) 志士連捷臣，在東安市場創辦一處閱報社。（第180號4）

・宣講所：1904年から民衆に対して道徳や文化、時事政治について教育する場所として設置、1915年から名称が“講演所”と改められた。

(98) 咳，有這許多白話報，又是閱報社，又是宣講所，下等社會，怎會老沒有進步呀！（第189號3）

(99) 創辦學堂，沒錢，辦工藝廠，沒錢，創辦宣講所，沒錢，創辦閱報社，沒錢，空有一個熱心。（第197號2）

・龕兒：後ろ盾。

(100) 惟有護國寺同豐堂居然不遵，硬敢照常賣堂客飯座兒，會沒有人問問。不知該飯莊有甚麼硬龕兒。（第181號4）

・圖片：紹介状。

(101) 咨取能寫清漢字的，到部考試，可是總得有本左領圖片，才成哪。（第185號3）

・大了：妓樓の女将。

(102) 秀榮封君，所立的檔房，是派協尉小鳳子為大了（翼裏會有大了啦）。（第182號3）

3.3. 動詞

・對保：拇印を押すこと。

(103) 守望巡警，趕緊把馬車攔住，讓他對了保，給老媽兒雇了一輛車，送回家去了。（第180號4）

・背酒：自家製造の酒を売ること。

(104) 齊化門外，有個著名背酒的堂客，叫黑了頭，身體很胖，把酒往胳膊底下跟腿下一藏，每天來回不定幾盞。（第182號4）

・瞎摸海：やみくもになにかをすること。

(105) 我身份比他們大的多，也跟他們這群苦小子一塊兒瞎摸海去，不丟了我的身份了嗎？（第188號1）

3.4. 形容詞

・損：「やりようがひどい、えげつない」の意である。

(106) 猛一聽這話，彷彿說的太損太過，其實怎麼着？（第199號1）

・夠程度：人柄のよいことを表す。

(107) 多虧巡警，跑過去把車揪着，算是沒碰別人。這個巡警，實在夠程度。（第180號4）

・不願意：「不愉快である」の意で用いる。

(108) 並且說了許多刻薄話, 什麼你們出聖人的地方兒不行啦等話, 我聽着不願意。(第 205 號 1) · 楞頭楞腦: ほんやりした様を表す。

(109) 一清早, 忽然進去一位年輕的爺們, 楞頭楞腦往轆轤井裏就跳。(第 180 號 4)

五、北大装丁本の「短篇社会小説」と『小額』の文字の異同

最後に今回閲覧できた『進化報』の小説「短篇社会小説」(後の『小額』)と単行本の『小額』の異同を資料として次に収録する。

「社会短篇小说」は、新聞の余白を埋めるために書いたかのようで、また筆に任せて書いたようでもある。楊蔓青の序⁽¹⁹⁾によると、後に単行本として刊行する話になったときに、蔡友梅としては、改めて書き直そうとしたが、読者からの催促に原稿に手を入れる暇がなかったとある。今回見ることでできた『進化報』に載った『小額』は、分量は多くないが、以下に示すようになり細かく修正をしている。

例えば、起点を表す介詞「且 jiè」は三カ所あり、そのうち二カ所を「起」または「打」に直している。この三つの介詞の使い分けについては、よくわからない。

また、現代漢語では「動詞+了…了。」と表記する構文を、蔡友梅は、「動詞+了…啦。」と表記することにしたようである。後の彼の他の小説に於いても、表記が統一されている(3.4.)。

1. 『進化報』: 額大奶奶是竟顧啦老頭子啦。→ 『小額』: 額大奶奶是竟顧了老頭子啦。
2. 『進化報』: 我為這回事, 真着大啦急了。→ 『小額』: 我為這回事, 真着了大急啦。
3. 本處都閩府大老爺請他喫飯, 算是賞了禿丫頭臉啦。(『庫緞眼』損公)
4. 王氏哭着說道: “劉大媽你害苦了我啦!” (『鐵王三』損公)

第 209 號の「道叫」二例については、「道解」に改めているが、徐世榮は『北京土語辭典』で、「道揭」の項で以下のように解釈している。蔡友梅は「道叫」を「道解」とする方が、dàojie の音に近くなると考えたのかもしれない。

道揭 dàojie 謂自说身世、来历、当众夸耀。“揭”或是“叫”jiào 的变读。参见《副编·旧京土语》: “道叫”条。

道叫 dàojie 指大声说话, 以表白自己的姓名, 身世及要求等。

次に『進化報』の「短篇社会小説」本文と『小額』の本文を比較したものを記すにあたり、次のように凡例を定める。

1. A | B: 下線部は A の部分が『進化報』では B になっている。
2. C: 下線部は『進化報』にはなく、単行本『小額』にある文字である。
3. {D}|{| 内の D は、単行本『小額』にはない文字である。

(第 182 號)

雜 錄

短篇社會小説 (續前)⁽¹⁹⁾

就瞧對面兒的棹兒上 坐着一老一少 一邊兒喝酒 一邊兒苦講究 就聽那個上歲數兒的說 小王也有信出來啦吧 年輕的說 豈但小王出來呢 大概那幾檔子都可以出來 活該就結啦 這個鄉下老兒一上吊 倒救了他們啦 老者說這件事 滿宅漢宅都知道了吧 (俗常管滿漢巡城的御史 叫作滿宅漢宅) (未完)

(第 183 號)

年輕的說那是自然哪 趙華臣一聽心裏一動說這件事來岔兒呀 趕緊跟人家一遞嘻和兒 跟着這們一打聽 這位年輕的 這們一開演說 原來是一個鄉下老兒 爲地租子的事情 讓某宅在南城給送下來啦 過了兩堂 挨了好幾通兒打 鄉下人胆子小 十四的晚上 在裏頭上吊死啦 這兩天南城衙門正搗麻煩呢 滿漢都老爺商量 是不要緊的官司 打算一半天一齊開釋 (大約小文子兒跟花鞋德子假宗室小富 也都必可以出來) 趙華臣一聽見這個信兒 心裏說 這都是肥豬拱門的事情 所以第二天一清早 叫爛眼兒朱套車 一直的夠奔額家而來 見了額大奶奶 說了些個 短禮缺情的套子話 (未完)

(第 184 號)

又問了問小額的事情 額大奶奶把小額的事情 怎麼長 怎麼短 述說了一遍 趙華臣跟小額原是世交 先頭裏也說過 論着比小額長一個倍 當時勸了額大奶奶幾句 甚麼大奶奶你別着急啦 事欸 則圓啦 又說了些個費話 正這兒說呢 就瞧老張且起 外頭進來 給趙華臣請了個安 說我們少奶奶來給您請安來啦 話沒說完 小文子兒的媳婦兒 跟着也就進來啦 要說小文子兒的媳婦 雖然是倉花戶的女兒 庫兵的兒媳婦 打扮的倒還公本 細條的身材 瓜子兒臉 重眉毛 大眼睛 擦着挺重的脂粉 疏着大倆把兒頭 (那時候還沒興拉翅兒呢) 一腦袋翡翠的簪子 身上穿着淺色的竹布衫兒 脖子上圍着一塊三尖兒的粉紅的絹子 上頭繡的是龍睛魚 (頭二十年興過一陣子龍睛魚的花樣 無論甚麼上 都講究龍睛魚) 腳底下穿一雙粉紅色緞子的雙臉兒鞋 是綠皮臉兒 有三寸多厚的底兒 舉止倒很大氣 進了上屋裏 給趙華臣深深的請了一個躡兒安 (說大爺爺您好哇) 列位 趙華臣今天來 小文子兒的媳婦 想起甚麼又出來見來呢 這裏頭有一個緣故 自從額家父子遭了官司 額大奶奶 (未完)

(第 185 號)

是竟顧啦 老頭子啦 兒了的官司 可就擱在九霄雲外啦 小文子兒的媳婦兒 心裏着急 又不好跟婆婆說 娘兒倆 很犯了點兒擰兒 王大狗子 雖然答應着給姑爺托人情 南城他很不熟 無非是瞎吹 後來小額這檔子官司 錢是賺到手啦 原打算再撲這檔子 沒想到他們倉上 因為打黑檔子米 鬧了一個廷寄 正身兒的花戶 小韓三兒跟林五兒 全都進了部啦 他老先生也躲啦 這回事也就擱下啦 後來聽見趙華臣 管給小文子兒托官司 偷着讓李順 上趙華臣家裏 還去過一盪 李順就棍打腿說他有個相好的 在南城當衙役 花倆錢兒 可以先買個舒服 還賺了十五兩銀子去 (額家算全遇見好人啦) 今天聽見趙華臣來啦 正赶上王親家太太在這兒住着呢 老張又一獻殷勤 (未完)

(第 186 號)

說少奶奶 您不見見趙大老爺去嗎 王親家太太又一說 人家為姑爺的事情分心 姑娘你見見去吧 趙華臣又是一個世交的爺爺公 所以小文子兒的媳婦兒 纔出來見趙華臣來 閑言少叙 單說趙華臣 看見小文子的媳婦兒給他請安 趕緊把眼鏡兒一摘 還了一個揖 說少奶奶請起罷 小文子兒的媳婦兒說 您孫子的事情 還讓大爺爺分心 趙華臣說 這樣兒世交 應當盡心的 額大奶奶一聽 瞪了兒媳婦兒一眼 趕緊的說道 大叔瞧我們這步家運怎麼好 他們爺兒倆 一遭這個事情 鬧的我都糊塗啦 文祥這個事情 (小文子兒的名子叫文祥) 可是就仗着大爺爺啦 趙華臣一聽 說咳 大奶奶說那兒的話 這不是自家的事情一個樣嗎 少大爺這回事情真麻煩 都老爺是一死兒的咬牙 (未完)

(第 187 號)

我為這回事 真着大啦 急了 好容易這纔說好啦 為這檔子事 我還得罪了兩個朋友 細話

也不用說啦 今天給你們娘兒倆 送個喜信兒吧 一半天少大爺准出來 告訴大奶奶說 我這個人辦事 可就是有這們 點死心眼兒 既受人之托 總要給人辦妥啦 額大奶奶婆媳一聽這套白花蛇 趕緊都給趙華臣這們一請安 眼鏡兒趙說 咳 這是這麼 怎麼 啦 我剛纔沒說嗎 這跟自己家裏的事情一個樣 (未完)

(第 192 號)

還告訴你們娘兒倆說 這件事情 我還胆大 小小兒的作了點兒主意 這個年月 托人情就得錢 可是有限的事情 我先給墊上啦 按說提不到 這是話說的這塊兒啦 額大奶奶說 那兒有這們着的呢 大爺爺分心 還管墊錢 多少您告訴我們 明天打發人給您送了去 趙華臣說 咳 忙甚麼呀 籠共四百銀子的事 (不多 不多) 我還墊不了是怎麼着 正在說話中間 李順且外頭跑進來啦 說太太 了不得啦 北城的六老太爺來啦 額大奶奶一聽 登時一陣的發楞 原來這位六老太爺 是小額出五服的這們一個老祖兒 今年有六十多歲 年輕的時候兒 摔了過 幾年的私跤 後來在神機營當一份馬隊 在南苑喝醉了罵幫操 讓人家給撥 駁 啦 差一點兒沒把底餉鬧丟啦 素日為人 極其的不說理 有小額的阿瑪在世 就常來訛錢 倚着是老長輩兒 誰也不敢惹他 要十吊不敢給八吊 小額他阿瑪死的時候兒 這位六老太爺 因為送信兒送晚啦 接三的那天 大這們一闌喪 躺的月臺頭啦 不讓送三 好些個親友 怎麼勸怎麼不答應 鬧的小額真急啦 過來一往起攙他 喝 他老人家可託住了 楞說小額打他啦 翻滾不落架兒 非讓小額打死他不成 後來有人說着 應下給四百吊錢 兩個皮襖 (未完)

(第 193 號)

纔算完事 今年小額的生日上 他老先生來了一盪 喫了三天 臨走要借五兩銀子 小額沒敢駁回 且 起 那們就老沒來 今天忽然來到 額大奶奶所以的一驚 趕緊跟李順說 你告訴六老太爺 先請書房裏坐吧 趙華臣一聽 趕緊的站起身來 說我也不作 坐 着啦 額大奶奶說 大叔您忙甚麼的 您墊的那個 筆 錢 明天給您送去 趙華臣說 這們着吧 三義家那筆錢 不是應下六月歸嗎 由那筆錢上扣得啦 額大奶奶說 就是那們着啦 您多分心吧 婆媳又這們一請安 趙華臣抱拳陪笑 說大奶奶跟少奶奶 何必如此的多禮 說罷就告辭去了 趙華臣沒走的時候兒 李順一帶出話去 一請六老太爺書房裏坐 喝 立刻就炸啦 說了一大套閒話 李順說 老爺子您別生氣 不是不讓您裏頭院兒坐着 現在趙大老爺在上屋裏坐着呢 六老太爺一聽 說甚麼 趙大老爺 劉大老爺我也不論 李順一瞧 這位六老太爺 喝了個酒氣噴人 舌頭都短啦 知道是又碰的酒幌子上啦 趕緊說 老爺子您這兒坐着 我給您取 倒 茶去 李順出來 趙華臣就走啦 額大奶奶趕緊問李順 說六老太爺呢 李順說 (未完)

(第 194 號)

在書房裏哪 額大奶奶說 請他 (音貪) 上屋裏坐吧 李順答應着 來到書房一瞧 六老太爺呼如雷聲 呼聲如雷 睡了個挺香 李順進去一回稟 額大奶奶說 別驚動他老人家啦 今天我也不出門 啦 告訴廚房開飯吧 李順答應不提 簡斷捷說 吃完早飯 天就有一點多鐘的時候啦 就聽外頭一陣大亂 可不知 (未完)

(第 197 號)

又是甚麼禍事到了 額大奶奶 剛要叫人出去瞧瞧去 就瞧小文子兒 同着假宗室小富跟花鞋德子 三個人且 打 外頭進來啦 要說這三個人 自打一遭官司 就老沒提到他們 皆因小額這檔子事情 頭緒 太麻煩 所以老沒說到 他們三個人 進去的那天 一個人就乾了一百嘴吧 (可倒好 開鍋兒爛) 打完了就這們一收 算是便宜 有一個藍頭兒 跟小文子兒有點 兒 認識 後來兩個人一稿 稿出一個聯盟來 這個藍頭兒 人真不錯 最愛交朋友 很照應他們 所以三個人 在裏頭 並沒受

多大罪 要說小文子兒平常交的朋友 也很不少（朋友雖然不少 沒有一個夠朋友的）聯盟的啦 換帖的啦 那一類狗黨羊群 張哥王哥羅老哥 應當來瞧瞧他纔是哪 哈哈 您猜怎麼樣 連條狗都沒來 皆因外頭嚷嚷 小額要抄家 是小額的黨餘 餘黨 全要嚴拿 所以全搗了辮頂兒啦（世熊 慙 炎涼 可為浩嘆）後來出了這檔子上吊的事情 算是得了個巧當兒 把他們放出來啦 當時小文子兒回家 母子夫妻 彼此的哭了會子 額大奶奶 又把小額的官司 怎麼托的人 怎麼花的錢 怎麼也 老沒信出來的話 一五一十的 跟小文子兒說了一遍 究竟父子的情分 小文子兒聽了 心裏也是難受 這檔兒小文子兒 媳婦 瞧見爺們回來啦 心裏是非常的高興喜歡 皆因公公官司沒完 外面又不敢透喜歡的樣兒來 額大奶奶 看見兒子回來 想起老頭子來啦 心裏好一陣難受 可是難受在心裏 又不好說出來 這當兒德子跟小富 各自回家 六老太爺 喫完了晚飯 又借了四兩銀子 六吊現錢 醉薰薰的去了 簡斷捷說 又待了兩天 小額的官司 也還沒信 額大奶奶 這纔明白 希四跟孫先生 全是喫事 又打發人找希四 希四說是上天津老沒回來啦 孫先生 是沒有地方兒找去 正在着急沒法子的時候兒（未完）

（第 201 號）

忽然這有位救命星兒到了 您說這檔子事情 叙的彷彿麻煩似的 這裏頭有一個理 既叫作社會小說 就得竟說社會上的事 既說社會上的事 就得把一切的腐敗惡習 野蠻現象 都形容出來 那一點兒說的不到家 就不夠社會小說的程度 您知道從先街面兒上 有一個說評書的 吳輔亭呀 他專說永慶昇平 說的雖然土一點兒 可是真有趣味 把土地文章他算揣摩透啦 一檔子山東馬三吃白德（研究過永慶昇平教科書的 都知道這個節目）他真能夠吃他兩個月 雖然是有枝兒添葉業兒 可都是社會上實有的情形 決一點兒外道天魔沒有 論道我們這檔子社會小說 雖然以小額為主 可是借着小額 要發揮好些個事情呢 所以不能不磨煩點兒 小額這檔子官司 倒是個引子，熱鬧扣子 都在小額瞧病上呢 如今僑們把小額的官司 乾脆讓他完了 等到小額瞧病的時候 僑們再細寫 您瞧好不好（那位說啦 好）閑話少說 接續前稿 您猜這位救命星兒是誰 是小額一個老表叔 此人姓明 當護軍參領 人都稱呼他明保明五爺 住家在西直門溝沿兒 家裏是一個世家出身 明五爺的老人家 當過一任熱河兒的都統 很有幾個錢 明五爺為人 極其的公正 口直心快 慷慨好施 外帶着專一愛打個抱不平兒 在這短篇社會小說裏頭 總算是第一的人物啦（也得出來一個好人啦 這些日子所叙的 類如青皮連 胎裏壞等輩 真沒有一個夠人格的 臨完啦再要不出來一個好人也真不像話啦）皆因性情耿直 永遠不懂得應酬鑽幹 所以一個護軍參領 就老了隱啦 不然副都統早當俗啦（唉 聽着令人可嘆）跟額家雖然是一門遠親 從先走的 可是 挺親熱 後來見小額所行所為 很不是那們回事情 老頭子 撒開了這們一勸 很說了些個直話 無奈小額不聽 反倒跟明五爺惱啦 老頭子一生氣 也就不那們愛理他們了 雖然親戚沒斷 也就是過一個分子跟拜年就是啦 小額先頭啦那個夫人兒 還是明五爺的媒人哪 要說明五爺 今天想起甚麼上額家來了呢 小額這檔子官司 明五爺 早知道啦 皆因十四日那天 出西直門喝茶去啦 碰見小額的外甥 大拴子啦 提起額家事情來啦 大拴子一說 怎麼他大舅母竟哭 怎麼托了好些個人 花了好些個錢 官司可老沒信完 說了個挺苦情 明五爺一聽 忽然 想起小額的阿瑪 臨死的時候兒 怎麼托付照應小額的話 不由惻隱的感情 心中一動（未完）

（第 202 號）

所以明五爺今天 到小額家裏看看 明五爺這一發現 小額的官司 可就有信完啦 這兩天 館連接來函 催問小額的官司 諸位既是惦念着小額 僑們讓他乾脆出來 您瞧好不好 原來這位明五爺跟伊老者是一個茶友兒 二位還是真說的來 簡斷捷說當時 明五爺見了額大奶奶 這們一提 怎麼這官司非求伊老者那兒鬆嘴完不了 怎麼去求伊老者去 別管怎麼着 總想法子讓小額出來的話

(未完)

(第 207 號)

一五一十|如此若彼|的說了一遍 額家母子 是千恩萬謝 請安磕頭 撒|開|了這們一栽培 明五爺滿口裏應承 連找了伊老者兩邊 都沒見着 第三邊算是見着啦 明五爺再三的一哀求 並且說小額出來 必然讓他磕頭賠禮 伊老者原是個忠厚人 登時就答應啦 家裏跟大爺善金一說 善大爺先頭啦還不認可 後來伊老者說 是了就是了 何必跟小人 一死兒|的| 結仇呢 (是忠厚人的口吻) 善大爺自マ好謹遵父命吧 可巧第二天文紫山文管家大人 請善大爺喫飯 善大爺反倒給小額 這們一求情兒 讓文紫山給想主意 文紫山說 既然老伯跟大兄弟 打算積這份德 我想法子讓他出來就是啦 善金回家 跟伊老者一說 登時晚上 善大爺 寫了一封信 內裡說的是怎麼讓小額出來的話 出的是伊老者的名子 打發二爺善全 給明五爺送去 (小額遭官司 就是善大爺一封信 小額官司完也是善大爺一封信 又是遙遙相應) 書要簡決為妙 明五爺是個性急的人 接信之後 立刻到額家一提 額家母子 那一份的感激下忱 就不用提啦 第二天這個信兒一傳出去 喝 碎催又全都露了面兒啦 甚麼擺斜榮啦 小腦袋兒春子啦 (未完)

(第 208 號)

借着瞧|小|文子兒為名 算是全出了世啦 |簡斷捷說| 五月二十一那天 北衙門開釋的小額 玉老爺當堂大申飭了一頓 說是以後你再有重利盤剝 倚勢欺人的事情 或是有人控告 或是別經發覺 一定是送交刑部 從重的治罪 這次是格外的從寬 小額唯唯的答應 甚麼夸蘭達恩典啦吧 旗人不敢啦吧 說了個一大囉車 當時具結完案 暗中交代 底面兒又花了不少的錢 這檔子官司 算是完事 那一天這把子碎催 又約了點子 雞頭魚刺 弄了些輛車 把小額接出來 原來明五爺早都說好啦 在伊老者住家的口兒外頭 有一個同福堂飯莊子 讓小額先去 然後明五爺又約了幾位恭本人 拿車把伊老者接了去 讓小額給伊老者磕頭賠禮 敬酒三盅 那天伊老者沒肯去 善大爺去的 (未完)

(第 209 號)

這群碎催 一見善大爺 個個兒緊毛 全都有點兒怵岔兒 誰也沒敢道叫|解| (不是在人家門口 拍人家的時候兒啦) 這幾位恭本人 也不很會跳動 倒是明五爺 說了幾句大寔話 說得了 額啦大呀 誰讓你錯了呢 賠個不是吧 小額原是個土匪出身 到了兒能道叫|解| 兩句 說善大兄弟 這回事我算受了人家的害啦 前場的話呀 招老大爺生氣 一百不好 是我的不好 這回事的話呀 有我們明五叔在頭裏 你們老爺兒們 算是高抬貴手 大兄弟 我這兒給您磕頭啦 善大爺是一瞧見小額 (未完)

六、まとめ

北京語による小説とされる蔡友梅の「社会短篇小説」はもちろんのこと、語法・語彙の用例からもわかるように、蔡友梅が社長となって発行された『進化報』は、北京語語彙が頻出するほか、極めてなめらかな口語文で書かれた新聞といえる。『小額』の楊蔓青の序⁽²⁰⁾によると、蔡友梅は、『進化報』に掲載する小説を最初は文言で書こうとしたが、新聞の文体からわかりやすい言葉で書くことにしたとある。『京話日報』の宗旨を引き継いだ『進化報』は、短命に終わったが、言葉の上では『京話日報』の「京話」以上に「京話」な新聞であったといえる。今回見ることが出来た『進化報』は一ヶ月程度の量であったが、清末民初の北京語の姿を明らかにする重要な資料であることが明らかになった。今後も『進化報』の所蔵館の有無を調べるとともに、他の白話新聞資料の発掘も続けたい。

本研究は平成 24 年度 (2012 年) 岐阜聖徳学園大学研究助成金を受けた。

【注釈】

- (1) 「李蔭青傳」, 梅菟著, 『北京益世報』コラム「益世餘譚」, 中華民國九年六月廿八號。
- (2) 「代秀君夫人王氏求助」, 梅菟著, 『北京益世報』コラム「益世餘譚」, 中華民國九年十二月廿一號。
- (3) 1904年8月16日(七月初六日)創刊, 社長は彭翼仲。文章の平易さから北京だけでなく、北方各省でも広く読まれ、多いときは販売部数は一万部を超えた。
- (4) 松友梅「合婚の事真可笑」, 第329號, 7月19日。松友梅「錢法又出了吵子了」, 第333號, 7月23日。松友梅「說算卦先生的陋習」, 第340號, 7月30日。
- (5) 「我又瞧見京話日報啦」, 李玉昆仁山來稿, 『進化報』第207號「演說」。
- (6) 徳少泉は、蔡友梅が『小額』を出版したときに序文を書いている。また、蔡友梅は『北京益世報』で友人徳少泉について次のように書いている。“友人徳少泉, 係前清附生, 變政後棄官業商, 雖然掙錢有限, 脫離齷齪官場, 倒也逍遙自在。少泉自幼, 好讀醫書, 都知道他醫道很高, 輕易不給人看病。”(「醫生須以人命為重」, 梅菟, 『北京益世報』コラム「益世餘譚」, 中華民國九年十二月十三號)
- (7) 北大装丁本には、第一面と第二面は第183號分のものしか綴じられていない。第183號の第一面と第二面の後に180號からが号順に綴じられている。装丁する際、日付は違うものの、第二面の広告はまったく同じである可能性があるため、そのうえかさばるし、一日分だけにしたのではないか。
- (8) 方汉奇著『中国新闻事业编年史 上』, 福建人民出版社, 2000.9, P431.
- (9) 『京師公報』(1905年北京創刊)、『正宗愛國報』(1906年11月北京創刊)等の編集を歴任する。
- (10) 『進化報』の編集のほか、蔡友梅と自治討論会や宣講所等の活動に参加している。『進化報』第182號と第183號のコラム「演說」に『国民教育』の文章がある。
- (11) “胡君號星齋, 別號無我, 曾任進化報編輯, 講演界頗著盛名。在本白話報擔任過社會見聞。”(『北京益世報』コラム「益世餘譚」, 「西藥宜慎」, 梅菟, 中華民國九年二月廿八號)
- (12) “十七年前, 記者同趙時敏、關松石、樂綏卿諸君, 在北新橋北組織進化閱報社。”(『北京益世報』コラム「餘墨」, 「白瞧報帶偷」, 梅菟, 中華民國十年九月十號)
- (13) “聽說該館の諸位同人, 是同盡義務, 不支薪水。(您別捧場啦! 我們快賠墊不起啦。哈哈。友梅註) 寔在的令人佩服。”(「我又瞧見京話日報啦」, 李玉昆仁山來稿, 『進化報』第207號コラム「演說」)
- (14) “後因趙關兩君出京, 樂君逝世, 記者亦因公赴豫, 經理無人, 始行停辦。”(「白瞧報帶偷」, 梅菟, 『北京益世報』コラム「餘墨」, 中華民國十年九月十號)
- (15) 『京話日報』では「小説」は3面に、「兒童解字」は4面に「宮門抄」「論旨」「電報」の後に置かれている。
- (16) このコラムは『京都日報』(1908年北京創刊)第1004號~1027號(24日分。記事の内容から1911年1月から2月のものと推断する。)の第6版、「宮門抄」「論旨」の後に設けられている。著者の手元にある『京都日報』は、やはり製本されていたようであるが、製本の糸も切れ、表紙もとれている。劍膽の小説『孝子』(1-8續、16續-32續)25回分がまとめて最初に置かれてあったが、ニュースの部分・小説ともに散逸していると思われる。
- (17) 『神戸外大論叢 21 卷-3 号、23 卷-3 号』, 1970.1972.
- (18) “北京有宗舊式茶社, 俗名茶館兒。大茶館兒名窩窩茶社, 稍次者, 名為二葷鋪。雖云茶館兒, 亦賣酒飯, 不過品茶者多, 吃飯者少, 故以茶館兒名之。所賣菜蔬, 以三鮮、爆肚、炸裏脊、滷性口等, 為無上妙品。其餘出口貨, 以炒辣醬、爛肉麵為大宗, 內容簡陋, 碗盞粗劣。晚間燃牛角燈(近日改良, 大半燃洋油燈間有用電燈者)昏暗不明, 棹上設香盤, 以備品茶者吸煙。屋間褊懸鳥架, 腐敗狀況, 一言難盡。”(「愛鳥如命」, 梅菟, 『北京

益世報』コラム「益世餘譚」，中華民國九年三月廿二號)

(19)この二行は、毎号小説の前に記されているが、煩を避けて次号から省略する。

(20)“松君初欲以文話譯出，因礙於報格，不得已仍用平淺文字，登於小説一欄。每信筆一篇，無暇更計工拙，是書將次告成。松君欲重加點綴，復因閱報諸君，屢次來函詰問，必欲一窺全豹，乃草草附諸印工。”(『小額 社會小説』「社會小説序」)

【参考文献】

波多野太郎著，評論晚清短篇社会小説「小額」，『景印短篇社会小説 小額』所収，横浜市立大学紀要，1968年第186号。

太田辰夫、竹内誠編，『小額 社會小説』，汲古書院，1992.8

松友梅著，刘一之标点／注释，『小額（注释本）』，世界图书出版公司北京公司，2011.7

『中国早期白话报汇编』（40册），李伟、陈湛绮编辑，全国图书馆文献缩微复制中心，2009.1.

『京話日報』（12册），全国图书馆文献缩微复制中心，2006.3

『北京益世報』，中华全国图书馆文献缩微中心制作マイクロフィルム，1987

李伟、陈湛绮编辑，『中国早期白话报汇编』，全国图书馆文献缩微复制中心，2009

白維国著，「『小額』探索」，太田辰夫、竹内誠編，『小額 社會小説』所収，66-68頁，汲古書院，1992.8

管翼賢，『北京报纸小史』，『新闻学集成』第六辑，中华新闻学院民国三十二年版，

方汉奇主编，『中国新闻事业编年史（上）』，福建人民出版社，2000.9

